国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

国九整遠調　第13号
平成２２年　８月　５日
国　土　交　通　省
遠賀川河川事務所

「梅雨期（平成２２年）」における治水事業の被害軽減効果について

遠賀川流域においては、梅雨前線の活発化により７月１０日～７月１５日にかけて雨が降り続き、遠賀川流域内で浸水被害等が発生しました。（別紙１）

このような中、これまでに実施した河川改修事業等の結果、洪水被害軽減の効果が発現されましたので報告します。

【遠賀川（直方地区）床上浸水対策特別緊急事業】　（別紙２）

遠賀川の直方地区では、平成１５年７月の集中豪雨災害により、支川居立川の氾濫による内水被害（床上浸水　３２戸、床下浸水８６戸）が発生し、これを受けて平成１７年度から床上浸水対策特別緊急事業により、排水ポンプ場（排水量：毎秒４トン）の建設に着手しました。

今年、５月に北小川排水ポンプ場が完成、７月１３日～１４日の豪雨により支川居立川の水位が上昇しましたが、総排水量約１３万トン（約７時間稼働）を排水し、内水被害を軽減しました。

今回の出水は、平成１５年７月と同規模の洪水でしたが、支川居立川流域では内水被害の発生はなく、大幅な内水被害軽減の効果が発現されました。

【遠賀川（嘉麻市貞月地先）で緊急復旧工事を実施】　（別紙３）

遠賀川の貞月地先では、洪水により堤防のり面が洗掘を受けました。（7 月 14 日 9 時頃発見）

遠賀川河川事務所は、災害発見後直ちに道路管理者等関係機関と連携を図り通行規制や資材調達等を行い ７月１４日 １１：００ に緊急復旧工事に着手。翌、１５日 １９：００ に緊急復旧を完了、堤防決壊等の重大な被害の発生を未然に防止し、被害の増大を最小限に止めました。

【問い合わせ先】
国土交通省　九州地方整備局　遠賀川河川事務所
技術副所長　深町　弘幸　（内線２０４）
調査課長　　野村　真一　（内線３５１）
ＴＥＬ）０９４９－２２－１８３０

別紙1　平成２２年７月１０日から１４日の梅雨前線による降雨と被害の概要

被災状況写真（遠賀川水系）

◆家屋被害等（7月31日現在※）

【床上浸水】　88戸（ 飯塚市 66戸、直方市 22戸 ）

【床下浸水】293戸（ 飯塚市 187戸、直方市 106戸 ）

※数値は今後調査が進み次第変わる可能性があります。

別紙2　床上浸水対策特別緊急事業効果【遠賀川水系遠賀川（福岡県）】

遠賀川水系遠賀川では、平成17年度に直方市街部での床上浸水対策特別緊急事業に着手し、北小川排水ポンプ場（工期：H19.11～H22.5、総事業費：約10億円）の設置等を実施。今回の梅雨前線による出水では、同規模程度の出水であった平成15年7月洪水と比較し、**約118戸の家屋の浸水被害が回避された。**

※今回の出水では被害無し

彦山川

遠賀川

北小川排水ポンプ場4.0m3/s
（国交省：H22.5完成）

「放水路」及び「雨水幹線」等の整備
（直方市：H22.3完成）

P

筑豊直方駅

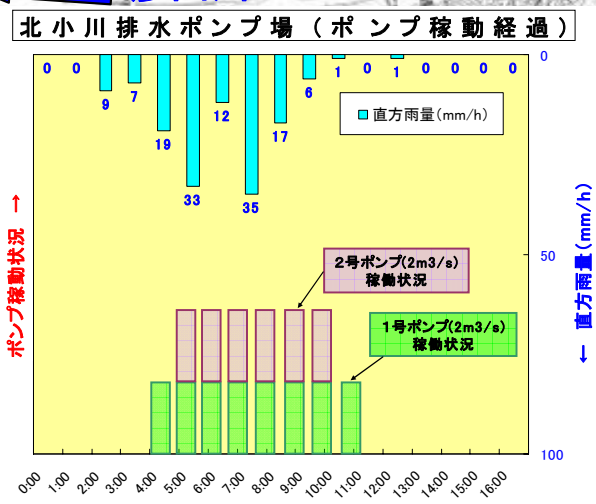
JR直方駅

H15.7浸水範囲

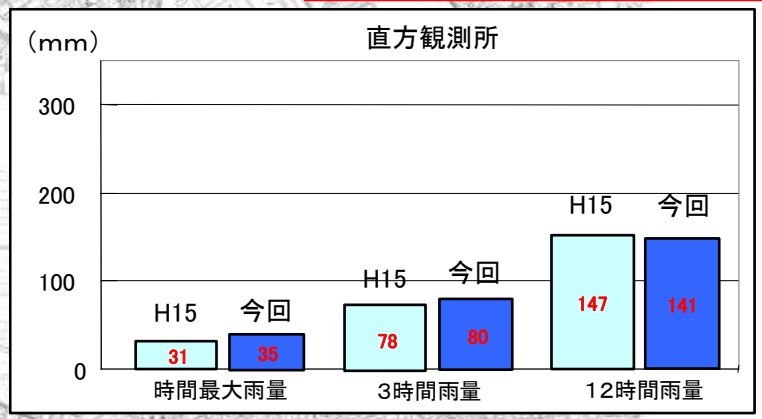
H21.7浸水範囲

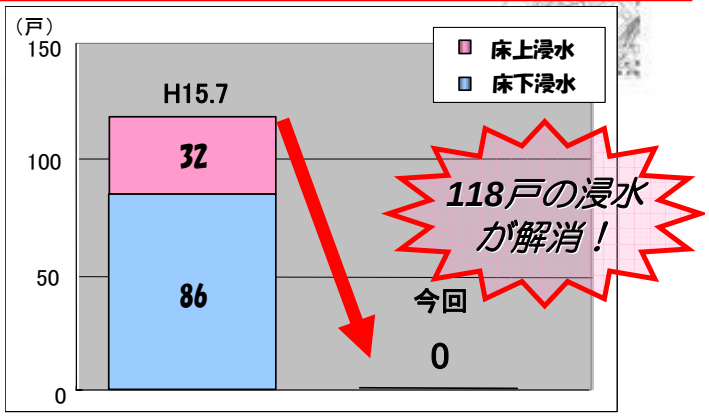
P

芝原排水機場5.5m3/s
（直方市）



今回の出水で約7時間運転し、総排水量約13万トンを排水し、内水被害を軽減した。





別紙3

平成22年7月10～14日出水

昼夜施工により１．５日で緊急復旧を完了！出水期での安全性を確保　遠賀川

○遠賀川本川では、洪水により堤防のり面の洗掘が発生。堤防の決壊の恐れがあったことから、緊急復旧工事を２４時間体制で実施し、１．５日で完了させた。

H22.7洪水による被害状況

被害内容：堤防のり面の洗掘
（被災延長２６ｍ）
被災箇所：嘉麻市貞月地先
発見日時：平成２２年７月１４日
９時頃発見

＜被災箇所＞
洗掘による堤防のり面の被災発生。

被災状況（堤防のり面の洗掘）

復旧工法検討
資材準備

1.5日間で緊急復旧完了！

○緊急復旧
- 根固ブロック(2t)　２８７個
- 袋詰根固工(2t)　５０個
- 盛土工　１８０m3
- 大型土のう　４０個

○施工期間
平成２２年７月１４日１１：００
～平成２２年７月１５日１９：００

緊急復旧の実施状況

夜間施工の実施

川表の復旧工事の実施状況